



JA いしかり

2018

8月号

Vol.353

10P

連載

“還暦おやじ”の新人農業者手帳

ゆうさ ひろふみ

平成27年度新規就農者 **遊佐宏文さん**

青年部が最先端農業を視察

6月12日、青年部が視察研修を行い、部員10名が参加しました。

はじめに、農業機械メーカーとして日本でトップクラスの日本ニューホランド（株）の苫小牧デポを訪問しました。日本ニューホランド（株）は、高性能農業機械の輸入販売や最新ICT農業（コンピュータを活用した情報通信技術等）の導入などを行っている会

社で、概要の説明を受けた後、工場の各部門を回りました。工場内の見学では、トラクター等の輸入から出荷まで幾重にも設備点検を行い、細かな部品の一つ一つに至るまで完全管理を徹底している様子が伺えました。また最新ICT農業の

説明では、前年のデータに基づき収量が低い部分のみに多く肥料を散布するシステムや、GPSを利用した施肥の最も効率の良いルート構築などを紹介しており、参加した部員も非常に参考になった様子でした。

続いて鶴川に移動し、昨年の全道JA青年部大会の実績発表で「むかわPRIDE」と題して鶴川の魅力を増進させるための取り組みを発表したJAむかわ青年部の元部長の須藤正人さんを尋ね、施設も見学させていただきました。

外国人研修生の導入をいち早く行った当時は、青年部長だった須藤さんが中心となつて



行動を起こし、地域の担い手の自覚を持って現在も尽力しています。また、それらの経験から現青年部員に向け、「最新農業や新たな取り組みなど農業を取り巻く情勢の変化を機敏に感じ取り対応していく必要がある」とのメッセージをいただきました。

参加者は、JAむかわの取り組みに負けじと気持ち新たにしました。



農業と福祉の架け橋に☆ ～青年部が新規事業始動～



6月26日、青年部さつまいも試験圃場で、「社会福祉法人はるにれの里レラ・もうらい」の利用者2名と職員2名を受け入れました。

これは、農林水産省も提唱している農業と福祉の連携を目的とし、知的・精神的に障害のある人の農業分野での就労を支援するものです。高齢化が進む農業環境の新たな労働力の一つとして注目され、その先駆けとして青年部が取り組む新たな事業です。

除草作業を青年部員が一緒に行い、今回は天候不順のため30分程の短時間でしたが、今後定期的に受け入れる予定です。

手に汗握る大接戦!! ～青年部ソフトボール大会～



6月15日、千歳市住吉ソフトボール場

で第44回石狩地区農協青年部ソフトボール大会が開催されました。前日まで雨が続き天候が心配されましたが、当日はスッキリとした青空に恵まれ絶好のソフトボール日和となり、石狩地区農協青年部連絡協議会の假谷智博会長の発声で決戦の火蓋が切って落とされました。

当JA青年部は残念ながら単協チームが編成できなかったため、JA北いしか



りとの混合チームで出場し、毎試合熱戦を繰り広げ、3位決定戦では11対11と一歩も引かぬ接戦で引き分けとなり、ジャンケンでの勝敗決定戦も最後までもつれ込む大勝負となりました。

5時間の熱戦を制したのはJA道央千歳ブロックで、JAいしかり・北いしかり混合チームは4位でした。出場された皆様、大変お疲れ様でした。

より楽しい活動を!! ～女性部視察は見所満載～



6月13日、女性部が視察研修を行いました。より多くの参加で楽しく過ごせる事業活動や研修会にしていきたいと新役員体制で計画を練り、他の単組情報で人気が高い『航空自衛隊千歳基地の見学』を行程に組み込み、近年では多い19名の参加となりました。

はじめに道の駅「花ロード恵庭」に立ち寄った後、楽しみにしていた「航空自衛隊千歳基地」へ向かいました。広報官に基地内を案内していただき、F-15救難機を間近で見たり実際に乗ることができ、貴重な体験に参加者はテンションが上がりっぱなしでした。

また、江別市の「ゆめちからテラス」という複合施設内に今年5月にリニューアルオープンした「のっぽる野菜直売所」の地場産野菜は定期的に少量でこれから本格化する様子でしたが、午後2時過ぎの訪問にも関わらず「夢パン工房」はレジに行列ができるほど大人気で、その集客力に驚かされました。最後に栗山町の「谷田製菓きびだんご工場」を見学し、道央圏各地の見所でリフレッシュした参加者はたくさんのお土産を手に帰路につきました。

全国で唯一、 町営の水稲育苗施設に感心

6月22日、米麦振興会が視察研修を行い、20名の会員が参加しました。

当日は天候に恵まれ、石狩市内の試験事業対象の水稲圃場2ヶ所（熊倉正紀氏・松本文男氏）と小麦圃場1ヶ所（佐々繁夫氏）の生育を確認し、石狩農業改良普及センターの高橋係長と佐々木普及員から作況や生育状況の説明を受けました。

その後、蘭越町役場に移動して蘭越町の金秀行町長から直々に育苗施設と米-1グランプリの概要を説明いただき、全国で唯一、町が運営する育苗施設の

視察を行いました。

蘭越町では、生産者の労働負担の軽減と安心・安全で高品質な米の生産を支援しており、平成30年度は4月12日～29日まで播種と中苗マスト227、275枚の出荷が行われ、面積換算で649.3ha、水稲面積の約40%をカバーしているとの事で、参加者は真剣に耳を傾け熱心な質問も多く飛び交い、非常に有意義な時間となりました。

視察後は札幌市内で懇親会を行い、和気藹々とした雰囲気の中で本年度の水稲と小麦の豊稔を願い全行程が終了しました。



とれのさとを更に盛り上げたい!! ～夏本番に向けて 直売視察～



6月27日、直売所出荷者協議会が十勝方面への視察研修を行い、会員27名が参加しました。

はじめに訪問したのは「JAめむろファーマーズマーケット」で、JAめむろの担当職員による店舗概要についての説明と質疑応答があり、参加者は出荷形態や精算方法などを熱心に聞いていました。

日航ノースランド帯広での昼食後、「道の駅おとふけ」を視察しました。野菜直売所は週末のみの運営という点で今回は残念ながら見ることはできませんでしたが、隣接している店舗を見学しました。

参加者は一様に「今回視察先で学んだ取り組みや出荷物を参考に夏本番に向けてとれのさとを盛り上げて行きたい」と意気込んでいました。

ミニトマト 国内初システムを視察



7月2日、高岡施設園芸生産組合が、会員8名の参加で札幌みらい中央青果株式会社の中村匡氏に同行いただき、ミニトマトの視察研修を開催しました。

視察先のJA当麻の共撰場は、国内初の高性能システムで、全てコンピューターで操作して労働力軽減を図り、低騒音で働く人にやさしい作業環境を整えていました。また、機械撰別のため迅速かつ正確で高品質なミニトマトが出荷できるシステムに、出席者は興味津々で様々な質問をして大変有意義な視察研修となりました。

人参共撰の事業連携に向けて

～JA北いしかりと合同で現地検討会を開催～

6月25日、人参部会が現地検討会を行いました。人参共撰は、今年度からの新たな取り組みとして事業連携によりJA北いしかりと共同撰果を行うため、お互いの親睦を深めるということで現地検討会を合同開催し、今回は当JAの横山忠昭部会長とJA北いしかりの佐伯孝夫部会長の圃場を巡回しました。

終了後には、ふとみ銘泉万葉の湯で懇親会を行い、日頃の疲れを癒やし、互いに人参生産への意欲向上と連帯感を深めることができ、とても有意義な一日となりました。

さやえんどう 面積減でも収量増へ

6月26日、さやえんどう部会が現地検討会を開催し、会員8名が参加しました。

はじめに、札幌みらい中央青果株式会社の東海林健氏より今年のさやえんどうの販売状況を説明して頂きました。その後、雪印種苗株式会社の大竹販売係長、津田主任、北川氏を講師に招き、昨年から取り組んでいる赤花「華夏」の品種説明や、栽培管理、活力資材の説明、試験圃場で行っている液肥試験を説明していただきました。活力資材は、さやえんどう以外の

ブロッコリー 販売額3億円突破に向けて



6月20日、ブロッコリー部会が目慣らし会を行いました。開会にあたり、成田和彦部会長より「4年連続の販売金額3億円突破に向けて良い目慣らし

作物にも使用することができるとのことで、たくさんの方が飛び交い、とても良い勉強の機会となりました。

その後、石狩地区の石井信也さんと花畔地区の杉中敏男さんの圃場を視察し、会員同士、栽培管理や生育状況などの意見交換の場となりました。

栽培面積は昨年よりも減少しましたが、更なる栽培技術向上と収量増を目指し、生産量の減少が最小限にとどまるよう努力を続けています。

会にしましょう」と挨拶があり、札幌みらい中央青果株式会社の木下忠副部長より「石狩のブロッコリーをたくさん出荷してください」と挨拶をいただきました。出席者からは今年度の出荷に関する意見がたくさん出て、更なる栽培技術向上への意欲が湧く会となりました。

また、6月28日には生産量全道1位のJA道央(千歳)のブロッコリー共撰施設と圃場を視察しました。ブロッコリーの撰別、発泡氷詰め作業の説明を受けた後、作付圃場を見学させていただき、参加者からは様々な質問や意見があり、大変有意義な研修となりました。



各共撰始まる



■ブロッコリー■

6月8日からブロッコリーの共撰受入を開始し、発泡氷詰め作業が21日から始まりました。

5月の低温で昨年より1日遅い受入開始でしたが、作付面積は昨年度よりも増え、約120haとなりました。共撰受入・出荷は10月下旬まで、主に札幌市中央卸売市場と石川県金沢市中央卸売市場に出荷する予定で、販売金額は3億7,000万円を計画しています。



■ミニトマト■

6月28日からミニトマト共撰を開始しました。

5・6月の低温と日照不足により生育が停滞気味で心配されましたが、昨年と同じ日に共撰を開始することができました。11月上旬まで札幌市場及び道外市場に出荷する予定で、販売金額は1億3,000万円を計画しています。



■さやえんどう・スナップえんどう■

6月29日からさやえんどう・スナップえんどう共撰を開始しました。

5・6月の天候不順もあり生育の遅れが心配されましたが、昨年と同じ日に共撰を開始することができ、10月中旬までの出荷予定です。さやえんどうの出荷先は、他の共撰品目よりも多く、道内外の17市場に出荷する予定となっています。生産者は14名で、作付面積は昨年度から減り約10haとなりましたが、販売金額は1億2,300万円を計画しています。



グリーンサポーター

活躍に期待!!



農作業中は自身の体の管理も重要です。

6月15日、グリーンサポーター協議会が援農隊マッチング支援事業の一環としてグリーンサポーター向け講習会を開催し、15名が参加しました。

座学講習では、グリーンサポーターの心得や農作業中の安全対策について説明を行いました。特に農作業中の安全対策面ではどのような状況で事故が起こるか、また熱中症の危険性やその対策などを重点的に話しました。

農協試験圃場内ハウスに場所を移し、松本尚俊会長と成田和彦副会長が説明と収穫実演を行いました。プロッコリーとサヤエンドウ栽培の一連の流れと作業内



収穫実演でポイントを説明



容や収穫適期の見極め方の説明後にサポーター自身にも実技を行ってもらい、関連してジャガイモや人参、メロン等の作業について補足説明しました。

参加者からは「実際に作業に入る前に体験ができて良かった」「想像と違う部分が多かったので実施してくれてとても感謝します」との声をいただきました。これからの繁忙期にあたり、より一層グリーンサポーターの活躍が期待されます。

JAバンクより日頃の感謝を込めて♡
～年金感謝ウィーク開催～



6月11日～29日、本支店の金融窓口でJAバンク北海道主催「年金感謝ウィーク」を開催しました。これは、公的年金をJAバンクで受け取りしている方が対象のキャンペーンで、いつもご利用いただいている皆様へ日頃の感謝の気持ちを込めて、昨年も大好評だった「招福ようかん」をプレゼントしました。

6月15日には、当JA独自のイベント「年金感謝デー」も併せて行い、今回はとれのさとの「ソフトクリーム引換券」をプレゼントし、この日は一段とお客様の活気で溢れていました。イベント期間中は、お客様が喜んでくださるだけでなく「楽しみにしていた」と来店される方々の元気な姿を見ることで職員も嬉しい気持ちになりました。

これからも皆様にご愛顧いただけるよう取り組んで参りますので、ご来店を心よりお待ちしております。

「いつも年金受取でご利用ありがとうございます♡」と招福ようかんを手渡し♡



〜昨年度よりも作業日数倍増で〜
新人職員が農作業体験!!

6月11日〜14日の4日間、

高岡地区の藤岡浩晃さんの圃場で新人職員農業現地研修を行いました。

前回同様に新人職員教育の一環で実際の農作業体験により農業への理解を深めることを目的とし、今回は花畔支店金融課金融係の佐々木莉子職員がミニトマトの植え付けや管理作業を行いました。

佐々木職員は「1日ごとに筋肉痛の箇所が増えていき、最終日は全身が痛くなっていました。藤岡さんやパートの方々のおかげでとても楽しく作業を行わせていただきました。苗の植え付けやハサミでの間引きなど、普段ではできない貴重な体験をさせていただきました。本当に感謝しています」とハウスの蒸し暑さも吹き飛ばすような笑顔で答え、真剣に作業を行っていました。

その2

花畔支店
 金融課 金融係
 佐々木莉子職員

想像よりも遙かに多い手作業にビックリ。研修後は、野菜を買いに行くときに手間のかかり具合を想像するようになりました☆





平成27年度新規就農者

遊佐宏文



一、タネ蒔きのタイミングによる失敗

新規就農者の私にとって最大の弱点は経験不足です。いくら失敗が先生だと自分を納得させてみても、失敗の結果は翌年にしか活かせないという厳しい現実があります。経験豊富な先輩農業者の方々は、同じ失敗でも過去の経験を基にシーズン内の修正として無難に乗り切ることも可能でしょう。しかし、目の前の事象の持つ意味を理解できないままに時間が経過してしまうことが私の悩みです。

トウモロコシの栽培について次のようなことがありました。文献的な知識に基づき、トウモロコシのトンネル栽培に取り組みました。4月下旬に定植し、ペットボトルを黒く塗り、いわゆる「湯たんぼ」にして夜間のトンネル内の気温の低下を抑えることによって早期収穫ができることを期待したのですが、五月の暴風によるトンネルの維持管理に労力を要したほどに成果がありませんでした。せいぜい数日早く出荷できただけであり、地温が高くなってから通常通りに植えておくこととほとんど差がなかったのです。労力の掛け損という結果に終わりました。



▲トンネル内に置いた湯たんぼは期待ほどに効果が出なかった

これとは反対に、秋に収穫するトウモロコシが甘味が増しておいしいとの新聞情報を参考に種まきの時期を遅くしてみた結果、実が入る前に気温の低下が訪れ立ち枯れ状態で種を無駄にしました。カッコウが鳴いたら豆を播けなどの話を聞いたことがあり

ますが、やはり長年の経験に裏付けられた種まきのタイミングがあるのだということを確認できたことがこの二年間の成果だったと思います。しかし、地球の気候も変動している昨今、これまでのことをしてても失敗したり、新しい取り組みが意外に成功したりといったことが繰り返されるような気もしています。失敗を恐れず、毎年ひとつは何かに挑戦しようと思います。



▲トウモロコシ畑にて

二、農家はゼロサム社会の中にいる!?

一時期ゼロサム社会という用語がはやりました。経済成長が止まり資源や富の総量が一定となつて、利益を得る者がいれば必ずその分だけ不利益を被るものが出てくるという、アメリカの経済学者サローの用語です。平成28年8月から9月に北海道を襲った台風や平成29年と30年

の大寒波で全国的な野菜不足による価格の高騰。農地を洪水で流出してしまった農業者や予想外の雪害で野菜のみならずハウスのダメになってしまった農業者のことなどが報道されました。農家は必ず天候の影響を受け、天候が良くて豊作となつても価格が暴落してしまい、それを予防するためにトラクターで畑の野菜を踏みつぶすニュース映像がたびたび放映されたことを覚えていています。最近では十勝で発生した水害でじゃがいもが品不足となりポテトチップスが生産中止になったかと思いきや、今年は一転生産過多(ひよことして輸入過多?)となり、じゃがいも価格が暴落するなど決して他人ごとではありません。私のように種蒔きの時期を間違つた結果として収穫量が上がらないのは仕方ないとしても、精いっぱい努力しても天が味方してくれないからと言って「ゼロサム社会」で済ますわけにはいかないのも人情です。各種共済制度が私たちを守ってくれていますが、栽培した野菜が無駄なく食され、農業者の収益が安定し、更には食品ロスとして食べ物が廃棄されないように毎日天を拜むしかないのでしょうか?? (了)

(平成三十年七月十日記)

今月の表紙紹介

～撮影オフショット～



▲ネイルが可愛かったので見せて見せて～♪と取材陣がお願い。収穫時はキチンと爪を短くしてますよ～(*^_^*)と。

周りを気遣い、いつもニコニコ、一緒に居ると周りの人が癒やされちゃうパワーの持ち主です。



今月の表紙は、花畔地区の佐々菜奈美さんです。

平成27年8月に新規就農して4年目に突入。オシャレにも気を遣う期待の農業女子です。直売所会員なので、運が良ければ「とれのさと」で会えるかも?!



▲佐々さんの名前を探して買っていくお客さんも多く、実が成る前から予約もチラホラ…品質の良さが評判のナスの前で。



▲「思春期は農業に抵抗があった頃もあったけど、今はすごく楽しくって……農業ってイイですよ♡」と。

理事会だより

第6回 定例理事会 ～平成30年7月12日～

■ 報告事項 ■

- 1) 営農経済委員会報告について
- 2) 米穀事業改革推進会議 視察研修概要報告について
- 3) 農産物出荷状況等について
- 4) 小麦の施設運営計画について
- 5) 仮決算棚卸・抽出検査について
- 6) 役員視察研修精算について
- 7) 砂糖の消費拡大に向けた取りまとめの実施について
- 8) 定年退職者の再雇用について
- 9) 農業委員会総会について

■ 審議事項 ■

- 1) 貸付金の申込み査定について
- 2) 信用事業方法書の一部改正について
- 3) 下期貸出金金利設定について

おくやみ

花畔地区 花畔農住
釣部 英一 さん
享年89歳
平成30年7月9日逝去

石狩地区 北生振
木村 喜孝 さん
享年88歳
平成30年7月9日逝去

謹んでお悔やみ
申し上げます。



働く人をささえる安心、
ここに 있습니다。

NEW 働くわたしの
セセール
生活障害共済

— 身体の障害による収入の減少や支出の増加に幅広く備える —

- ポイント1** 身体の障害状態を幅広く保障します。原因が病気かケガかを問いません。
- ポイント2** 公的な制度に連動したわかりやすい保障です。
●身体障害者福祉法に基づく身体障害者手帳制度と連動したわかりやすい保障です。
●身体障害者福祉法の身体障害状態に該当し、1~4級の身体障害者手帳の交付を受けた場合を保障します。
- ポイント3** ニーズに合わせてプランを選べます。
●収入の減少への備えに連した「継続的にささえるプラン(定期年金型)」, 支出の増加への備えに連した「まとまったお金でささえるプラン(一時金型)」を選択できます。両プランへの加入も可能です。

身体の障害の程度と認定の可能性がある障害等級のイメージ

<p>糖尿病(網膜症)による 著しい視力低下・失明</p> <p>1~4級</p>	<p>心臓の機能の 障害による日常生活の 著しい制限</p> <p>1~4級</p>	<p>喉頭がんにより 喉頭を摘出し、音声機能 または言語機能を喪失</p> <p>3級</p>
---	--	---

●参考情報としてご覧ください。●詳しくは、厚生労働省ホームページ等にて、「身体障害者障害程度等級表(身体障害者福祉法施行規則別表第5号)」をご参照ください。
●認定される障害等級は障害の程度によって異なります。●平成30年1月末現在の法令等に基づきます。

ご契約例 (30歳加入)	<p>定期年金型^{※1}</p> <p>共済金額 120万円 65歳共済期間満了</p>	<p>被共済者が生存している限り 120万円×毎年^{※3}</p>	<p>●第1回生活障害年金が支払われた場合、以後の共済掛金の払込みは不要です。 ●身体障害状態を毎年申告しただけ必要はありません。 ●第1回生活障害年金の支払いがなく、共済期間の満了まで被共済者が生存されている場合、無事故給付金(共済金額の30%(36万円))をお受けいただけます。</p>	<p>ご注意ください</p> <p>●この共済は、死亡時における保障はありません。 ●共済金等のお支払いは、その原因となる傷病等が責任開始時以後に生じた場合に限りま。</p>
	<p>一時金型^{※2}</p> <p>共済金額 300万円 65歳共済期間満了</p>	<p>300万円</p>		

※1 生活障害年金のお受取り要件:【第1回生活障害年金】被共済者が身体障害者福祉法に定める1~4級の障害に該当し、その障害に対して、同法に基づき1~4級の身体障害者手帳が交付されたこと。【第2回以後の生活障害年金】第1回生活障害年金が支払われ、被共済者が、次のいずれかの長い期間において到来する第2回以後の生活障害年金支払日ごとに生存していること。①第1回生活障害年金支払日以後5年間の第1回生活障害年金支払日以後共済期間の満了日までの期間。②生活障害共済金のお受取り要件:被共済者が身体障害者福祉法に定める1~4級の障害に該当し、その障害に対して、同法に基づき1~4級の身体障害者手帳が交付されたこと。なお、生活障害共済金をお支払いした場合にはご契約は消滅します。※3 共済期間の満了日または第1回生活障害年金支払日以後5年間のいずれか長い期間お受取りいただけます。

●ご加入にあたりましては、お近くのJA(農協)へお問い合わせください。●この広告は概要を説明したものです。ご契約の際には「重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)」および「ご契約のおしり・約款」を必ずご覧ください。

<p>はじめて共済</p> <p>http://shiryō.ja-kyosai.or.jp</p> <p>■JA共済ホームページアドレス http://www.ja-kyosai.or.jp</p>	<p>検索</p>	<p>本サイトから 「各といえくるま」の 各共済の資料請求・ 掛金試算ができます。</p>	<p>JA共済相談受付センター(JA共済連 全国本部)</p> <p>電話番号: ☎0120-536-093</p> <p>受付時間: 9:00~18:00(月~金曜日) 9:00~17:00(土曜日)</p> <p>※日曜日、祝日および12月29日~1月3日を除きます。 ※メンテナンス等により予告なく変更する場合があります。 ※電話番号は、おかけ間違いのないようご注意ください。</p>
---	-----------	---	---

くらしの保障、相談するなら **JA共済**

耕そう、大地と地域の未来。JAグループ

18481050180

